

パリアティブケア

選 択

開講年次：4年次前期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族の身体的・心理社会的・スピリチュアルなニーズを理解し、QOLを維持・向上するための知識と技術を学ぶ。また、エンド・オブ・ライフケアにおける倫理的諸問題を理解し、多職種チームの一員として看護師が果たすべき役割について習得する。

■**到達目標**：①パリアティブケア（緩和ケア）を受ける対象とその家族が直面する身体的・心理社会的、スピリチュアルなニーズを理解できる。
②パリアティブケア（緩和ケア）を受ける対象者の価値を尊重し、尊厳を守るための看護師の基本的態度とケアを理解できる。
③パリアティブケア（緩和ケア）の最終目標である、患者・家族のクオリティ・オブ・ライフを維持・向上するための看護師の役割について考えることができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎川村 三希子・菊地 ひろみ・石垣 靖子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 パリアティブケアの概念と関連用語の理解／トータルペインの理解と全人的ケアのためのアプローチ
- 第 2 回 ホスピス・緩和ケアの歴史と理念／QOLの概念とQOLを高めるケア（石垣）
- 第 3 回 エンド・オブ・ライフ・ケアにおける身体症状のマネジメント
- 第 4 回 喪失・悲嘆・死別の概念の理解とケア／援助者自身のケア
- 第 5 回 エンド・オブ・ライフ・ケアで直面する倫理的な課題と看護師の役割
インフォームド・コンセント/アドバンス・ケア・プランニングと看護師の役割
- 第 6 回 緩和ケア病棟でのケアの実際と多職種チームアプローチ
- 第 7 回 施設型ケアからコミュニティケアへ／在宅でのパリアティブケアと看護師の役割（菊地）
- 第 8 回 臨死期のケアと看護師の役割

■**教科書**：毎回ハンドアウトを作ります

■**参考文献**：「緩和ケア」／梅田恵 編集（南江堂）
「悲嘆学入門」／坂口幸弘（昭和堂）
上記以外にも、講義内で紹介します。

■**成績評価基準と方法**：レポートによる評価 100%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
レポート	◎	◎	◎		100%
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：成人看護学概論、がん看護学、生命倫理、症状マネジメント論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：すべての医療・福祉の基盤であるパリアティブケアについて理解し、医療や福祉の受け手の尊厳を守るケアとは何かという視点を、一緒に考えていきたいと思えます。